

製品名: BAF250b ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07430**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	170kDa

抗原情報

遺伝子名	ARID1B ARID1B; BAF250B; DAN15; KIAA1235; OSA2; AT-rich interactive domain-containing protein
別名	1B; ARID domain-containing protein 1B; BRG1-associated factor 250b; BAF250B; BRG1-binding protein hELD/OSA1; Osa homolog 2; hOsa2; p250R
遺伝子 ID	57492.0
SwissProt ID	Q8NFD5
免疫原	抗血清はヒト BAF250B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1371-1420

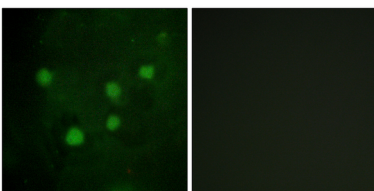
背景

この遺伝子座は、AT リッチ DNA 相互作用ドメイン含有タンパク質をコードしています。このタンパク質は SWI/SNF クロマチンリモデリング複合体の構成要素であり、細胞周期活性化に関与している可能性があります。この遺伝子座がコードするタンパク質は、AT リッチ相互作用ドメイン含有タンパク質 1A と類似しています。これら 2 つのタンパク質は、SWI/SNF 複合体の互いに排他的な ARID サブユニットとして機能します。これらの複合体は互いに相反する役割を果たします。異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2012 年 2 月]、注意: Met-1 と Met-59 のどちらが転写開始因子であるかは不明です。機能: クロマチンリモデリング (DNA-ヌクレオソームトポロジーの変化) による特定の遺伝子の転写活性化と抑制に関与します。DNA に非特異的に結合する。類似性: 1 つの ARID ドメインを含む。サブユニット: SWI/SNF クロマチンリモデリング複合体の構成要素であり、その一部では ARID1A/BAF250A と相互に排他的となる。BAF (SWI/SNF-A) 複合体の構成要素であり、少なくともアクチン (ACTB)、ARID1A、ARID1B/BAF250、SMARCA2、SMARCA4/BRG1、ACTL6A/BAF53、ACTL6B/BAF53B、SMARCE1/BAF57、SMARCC1/BAF155、SMARCC2/BAF170、SMARCB1/SNF5/INI1、および SMARCD1/BAF60A、SMARCD2/BAF60B、または SMARCD3/BAF60C の 1 つ以上を含む。筋細胞において、BAF 複合体には DPF3 も含まれる。SWI/SNF-B (PBAF) 複合体の構成要素であり、少なくとも SMARCA4/BRG1、SMARCB1/BAF47、ACTL6A/BAF53A または ACTL6B/BAF53B、SMARCE1/BAF57、SMARCD1/BAF60A、SMARCD2/BAF60B、おそらく SMARCD3/BAF60C、SMARCC1/BAF155、SMARCC2/BAF170、PB1/BAF180、ARID2/BAF200、ARID1A/BAF250A または ARID1B/BAF250B、およびアクチンから構成される。SWI/SNF 様 EPAFb 複合体の構成要素であり、少なくとも SMARCA4/BRG1、SMARCB1/BAF47、ACTL6A/BAF53A、SMARCE1/BAF57、SMARCD1/BAF60A、SMARCD2/BAF60B、SMARCC1/BAF155、SMARCC2/BAF170、ARID1B/BAF250B、MLLT1/ENL、およびアクチンから構成される。ARID1A/BAF250A および ARID1B/BAF250B を含む SWI/SNF 様複合体の構成要素である。C 末端を介して SMARCA2/BRM および SMARCA4/BRG1 と相互作用する。SMARCC1/BAF155 と相互作用します。組織特異性: 心臓、骨格筋、腎臓で高レベルで広く発現します。

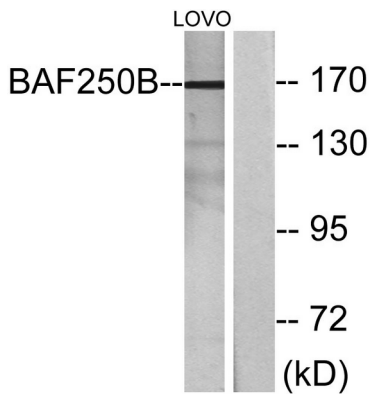
研究分野

-

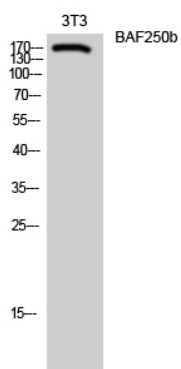
画像データ



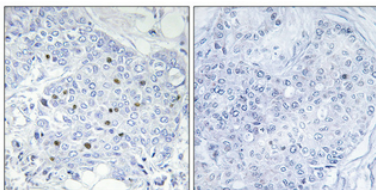
BAF250B 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



BAF250B 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 希釈の BAF250b ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。